

2021年度 チャレンジ・サイト報告書

分類型	課題解決型
-----	-------

プロジェクト名	命を大切に！ちゅぶねこ共生プロジェクト		
プロジェクト 代表学生	代表者名	学 科	コミュニケーション学科
		氏 名	堀田 萌

今年度の活動内容	活動回数	月約 30 回 / 年間約 350 回
<p>活動目的</p> <p>○きっかけと動機 捨てられてキャンパスに住み着いて増え続けていたノラ猫たちに無責任に餌をやる人が多く、猫たちによる施設内侵入や糞害、ゴミあさりや不衛生な環境への苦情が出ていた。放っておけば、保健所送りになる猫も出そうな状況だった。また、猫たちも人の食べ物を与えられて塩分過多になり、腎臓や心臓を患うものも多かった。そこで、チャレンジ・サイトに応募して、同じ志を持つ仲間を集め、また活動資金を得て、名古屋大学の「なごねこ」の会を参考に、TNR(=Trap, Neuter, Return)活動で猫の頭数を制限し、猫たちによる迷惑行為を防ぐことを思い立った(先輩談)。また、猫たちの健康管理をしたり、傷病猫の世話をしたり、啓発活動をして餌やりの管理を徹底したり、環境の美化に努めたりして、キャンパスにおける猫と人との持続的で幸せな共生環境を実現することを目指す運びとなった。</p> <p>○本活動の意義 キャンパス猫による迷惑行為を防ぎ、また人間によって不幸・不健康な状況に置かれた猫たちが天寿を全うできるよう、猫と人との理想的な共生環境の実現を目指すことに意義がある。</p> <p>○最終目標 活動を止めてしまえば、学外から再びノラ猫が入り込んで増殖して、再び人にとっても猫にとっても不幸な環境が生じてしまうことは必至である。したがって、チャレンジ・サイト終了後も、キャンパス猫の保護サークルを設立するなどして、責任を持ってノラ猫たちの世話をし、キャンパスの美化にも努める。人にも猫にも生きやすいキャンパスにし、それを持続的により良くすることが最終目標(継続的目標)。</p> <p>活動計画</p> <p>日々の活動を地道に継続し、他大学や地域保護猫団体との交流を通して、新しい知見やノウハウ、協力を得ることで、猫と人が共生できる幸せな理想的環境を実現するという課題を解決しつつ、将来に向けての活動設計も行い、持続的に活動していける仕組みを構築する。</p> <p>【具体策】</p> <p>■ 2021年度もコロナ禍によって、活動が制限されることが見込まれたため、まずは、これまで行ってきた地道で効果的な活動を淡々と行うこととした。具体的には、以下のとおり：</p>		

<ul style="list-style-type: none"> • 毎日の餌やり・健康チェック・環境チェックの徹底によって猫たちの健康管理を行う。 • 傷病猫がいれば、捕獲して保護し、治療のために通院する。 • 猫ハウスを縄張りの変化に応じた新たな場所に設置して、冬場の猫風邪を予防する。 • 未処置の新入り猫を発見した場合は、TNR 活動によって頭数管理を徹底し、施設内侵入・ゴミあさり・爪とぎ被害・不衛生環境等の被害を防止する。 • 方針決定・情報交換・交流のための定例ミーティングを開催する。 <p>■ また、チャレンジ・サイト終了後の活動に繋げるために、今年度新たに／特に力を入れて実施する活動は以下のとおり：</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍により全国大学猫連盟の定例シンポジウムが開催できないため、これまで以上に活発に SNS を使って連盟の他大学の猫サークルと交流して情報交換などを行い、また情報発信によって新メンバーをできるだけ多く勧誘する。 • 地域保護猫団体「春日井さくらねこ会」との交流により、今後、大学周辺を含む地域のノラ猫保護活動にも貢献することを視野に入れ、具体的な協力方法を検討する。 • 名古屋動物愛護センターの見学会を実施して、動物愛護への知見をさらに深めるとともに、自分達が得た知識を今後の啓発活動に活かす。 	
<p>実際の活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • 毎日の餌やり・チェックと 2 週間に 1 回水曜日にミーティング開催（対面・LINE 通話） • 頻繁な情報更新のため SNS 専用部隊をつくり、Twitter・HP などを利用した学外者の餌やり禁止啓蒙活動や、猫たちの日々の状態報告を行ったり、他大学と交流したりした。 • 猫たちの新しい分布に従って新しく防寒用猫ハウスを設置した。 • 3/7 春日井さくらねこの会との交流予定。 • 3/5 大学猫連盟との交流、3/15 名古屋動物愛護センター見学会予定。 	
プロジェクトの経過と成果	掲げた目的、目標と関連付けて具体的かつ簡潔に記入してください。
<p>活動中の課題と解決策</p> <p>○活動中に困ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> • 遠隔授業多発時や長期休暇中は餌やり当番の確保に苦労した。 • 活動時に周囲が暗く危険なことがあった（特に陽が短くなる冬場）。 • 当初、SNS の情報更新のし忘れが目立った。 <p>○解決をどのように図ったのか、解決できたか</p> <ul style="list-style-type: none"> • シフトのリマインドも兼ねて繰り返し LINE で協力を呼びかけ、メンバーの確保に努めた。 • 冬場は極力 2 人以上で回り、1 人の時は暗くなる前に回るようにした。 • SNS 専用部隊を作り、順番を決めて、担当者が責任をもって更新するシステムにした。 	
<p>活動の体験について</p> <p>○プロジェクトメンバーにとってどんな体験であったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 他学部他学科の人たちや学年の異なる人たちとの交流ができた。 • 猫が好きな人だけでなく、嫌いな人や困る人にも思いを巡らせることができるようになった。 • 学内限定活動から地域貢献活動へと幅を広げていく過程を経験することができた。 	
プロジェクトの成果の公表	学会発表や大会参加、見学会開催等の体外的な公表の機会や新聞取材等があれば記入してください。
<p>■ SNS 上での活動成果報告</p> <p>ノラ猫削減／殺処分ゼロに向けた啓発、猫と人の幸せで持続的な共生の実現、サークル化した場合の新規メンバー確保などのために、春日井さくらネコの会や全国大学猫連盟との交流、名古屋動物愛護センター見学会などの成果も含め、2018 年度からこれまでの活動を総括し、成果報告を HP (Twitter にリンク) 上に公開する。</p>	